

## 編集後記

今号の印刷発行が大幅に遅くなりましたことをお詫びします。

近年の編集担当者は年3回の発行を堅く守ってきたのですが、ここへ来て怠け者が参ったせいでしょう。

その代わりと言っては何ですが、今回は広く愛読者層の中から外の血を入れる型破りに出ました。

奈良岡局長には近年のホタテガイ養殖産業の危機的な状況に強い憂慮を抱いておら

れ、産業界に活を入れるべく、将来あるべき姿のご提言をいただきました。多忙に拘わらず、日頃の産業を守ろうとする熱い思いが流露した玉稿であり、今号の巻頭を飾らせて頂きました。

また、むつ水産事務所の野呂水産課長からはキアンコウに対する熱い思いをいただきましたし、小川原湖のシラウオの産卵生態について八戸水産事務所の榊普及員からは天然卵の発見という前人未踏の快挙報告をいただきました。

それに、長年、当所の機械係を勤めてき

た縁の下の力持ちである荒田主査からは飼育施設の生命線を守る海水取水施設の保守管理の苦労話を執筆していただきました。小生も負けずと、小泊沖のウスメバル稚魚の着底深度に関して昔話を織り交ぜながら知られざる透視能力と題して禿筆を嘗めてみました。

これを機にセンターだよりの一層の充実を図りたく存じておりますので皆様方からのホットな話題等持ち寄っていただけたらと思っております。よろしくご協力のほどお願い上げます（塩）。